

社会教育功労者表彰

～和田美紗子さん 木村孝徳さん～

平成17年度社会教育功労者表彰が、東京都内であり、阿蘇市から和田美紗子さん(古城5の2区)と木村孝徳さん(北1区)が受賞されました。



▲木村さん(左)と和田さん(右)



和田さんは、畜産等の農業を営まれながら、婦人会活動を通じ青少年教育等の社会教育や生涯学習の振興にかかわられ、その豊富な識見や経験等を生かし、15年間一の宮町社会教育委員として活躍。郡内各地域の社会教育や生涯学習の推進に尽力されました。また、一の宮町地域婦人会会長をはじめ数々の役員を歴任され、男女共同参画社会の実現に向けた活動に取り組みられたほか、一の宮町農産加工所の企画・開発・運営にも永年貢献し、特産トマトを使った農産加工品「阿蘇ものがたり」は全国的にも高い評価を受けています。

木村さんは、昭和51年から写真技師としての知識や経験を活かし、ボランティアで国立阿蘇青年の家で青少年の活動写真を撮影し、活動プログラムを紹介する資料作成等に貢献されています。気さくで常に笑顔を絶やさない人柄で、職員だけでなく利用者からも愛され、木村さんがカメラを向けると誰もが笑顔になってしまいます。また、雄大な阿蘇の自然の撮影をライフワークとし、その作品を青年の家施設内に展示して、利用者に自然の大切さを訴えられています。

ソフトバレー最多97チーム 阿蘇市で熱戦!!

大阿蘇Vリーグ40回記念大会が11月13日、阿蘇体育館で開催され、阿蘇市内の30チームをはじめ県内全域、また遠くは大分県から総勢97チーム、450人が参加し熱戦がくりひろげられました。

選手は、日ごろの成果を出そうと白熱したプレーを展開。会場は大きな声援で賑わいました。

今大会の第1回開催は平成8年、参加数6チームからのスタートでしたが、以後スタッフの努力で、このような大きな大会へと飛躍しました。宿泊等も有り地域にも大きく貢献しています。

参加チーム募集!

次回大会を2月19日(日)に行います。
多数のご参加お待ちしております。

申込・問合せ先
大阿蘇Vリーグ実行委員会
委員長：園田浩文
(Tel. 32 - 4727)

賞味期限や原産地の表示をチェック

～1日食品衛生監視員～



▲表示について説明を受ける参加者

食品が大量に流通する年末を重点監視期間として、食品営業施設での食品の取り扱いや施設の衛生管理の状況を消費者の目でチェックしてもらい、消費者の食に関する認識を深めようと、12月8日、「1日食品衛生監視」が行われました。

消費者の代表として、阿蘇市食生活改善推進員協議会の会員6人が阿蘇保健所長から「1日食品衛生監視員」の委嘱を受け、阿蘇食品衛生協会指導員、阿蘇保健所、九州農政局消費・安全部、阿蘇市職員らと、今回は「はな阿蘇美」「みやらはら内牧店」を訪問し、食品の保存、陳列状況や賞味期限、原産地の表示等を細かくチェックしました。

熊本県農業功労者表彰

～ 佐藤俊哲さん ～

佐藤俊哲さん(道尻)が、熊本県知事から農業功労者表彰を受け、11月14日に熊本県庁で表彰式が行われました。

佐藤さんは、26年10ヵ月にわたり、農協理事として組合発展に貢献。現在の夏秋トマト等の産地化に尽力されました。また、21年間、土地改良事業換地委員として、昭和45年から開始された県営阿蘇谷地区圃場整備事業の実施にあたり、地権者の理解促進や事業参画同意取得に粉骨砕身されるなど、地域農業の振興と発展への功績が認められ、今回の受賞となりました。

佐藤さんは、「身に余る思いです。この受章は皆さんのご協力により頂いたものです。また家族にも大変感謝しています」と感想を話されました。



自分たちで育てた ホタルの幼虫を放流



▲声をかけながら、放流する児童。

11月29日、中通小学校の2・3年生が近くの小川に「ホタルになって帰ってきてね!」と、声をかけながらホタルの幼虫を放流しました。

この取り組みは、中通ホタルの会(岩本弘史会長)らが5年前から行っており、今年は約100匹の幼虫を放流しました。

幼虫は6月に同会がふ化かさせ、子どもたちが、夏休み中も交替で水を替えたり、餌(カワニナ)を与えたりして、ようやく2～3cmに育てたものです。

放流した子どもたちは、「最初は小さかった幼虫をこんなに大きく育てることができてうれしい」と、感想を話していました。

会では、このほか子どもたちと一緒に、彼岸花の植栽なども行い、環境の大切さやふるさとのよさを地域全体で共感しています。



人気のお相撲さんが市民と交流

モンゴル出身の力士「白鵬関」など宮城野部屋の皆さんが、11月29日、阿蘇市を訪れたたくさんの人たちと交流しました。

この企画は、宮城野親方と親交のある有志や地元の相撲関係者の協力で実現したもので、市内の福祉施設2ヵ所を慰問し入所者と交流。その後、古城小学校の土俵で、地元の相撲部、愛好会の子どもたちに基本の指導、さらに技の披露をするなどのサービスで会場を盛り上げました。

「相撲中継はかかさず見ている、本物の力士に会えて感激した」と、お年寄りから子どもまで大変喜ばれました。なお、この後行われたチャリティー懇親会での益金も阿蘇市に寄付いただいています。



▲白鵬関に稽古をつけてもらう子どもたち。

県文化財功労者表彰

阿蘇市文化財保護委員会副委員長 榎木野不羈夫さん



11月25日、熊本県文化財保護大会が八代市で開催され、阿蘇市から榎木野不羈夫さん(榎木野)が熊本県文化財功労者として表彰されました。

この賞は、熊本県における文化財の保護・活用等に顕著な功績があった個人等を表彰し、文化の向上に資することを目的に、今年で34回目を迎えます。

榎木野さんは、昭和55年から文化財保護委員を務められ、現在もご活躍中です。また、波野村史編纂委員の際は、資料の収集などに中心的な役割を果たされ、地域の歴史の解明や伝統的文化活動の振興に貢献されたことに対して表彰されました。



「阿蘇の牛舞」を披露

11月13日、第2回熊本県子ども民俗芸能大会が菊池市で開催され、阿蘇市から宮地小学校牛舞クラブが出場しました。この大会は、民俗芸能に対する理解と認識を深め、保存・伝承を図ることを目的に開催されています。大会では、柿塚熊本県教育長から出場団体に奨励賞が手渡されました。

牛舞の巧みなお囃子に合わせ、農作業の床作りやユーモラスな赤牛の動き、阿蘇弁まるだしのセリフを児童が披露すると、客席からは大きな歓声が沸き上がっていました。

「阿蘇の牛舞」は、古くから豊作を祈願する舞いとして伝わり、熊本県重要無形民俗文化財に指定されています。宮地小学校では、昭和56年から保存・伝承に努めています。



▲ユーモラスな動きを披露する宮地小のメンバー

いろいろなおもしろい人 内牧活性基地に集まれ！

～チャレンジショップの入所者募集～



▲「語る会」の様子。写真中央が中村さん。

内牧商店街のまちづくりグループ「Tomaっとベリーな街」実行委員会は、いろいろな人が集まり気軽に交流できる拠点を内牧の広町にオープン。来訪者に「地元の話」や「内牧を楽しむギャラリー」がうけています。

1階部分は、現在ギャラリーに使っていますが、チャレンジショップ(店舗)として貸し出す計画で、内牧でお店をやりたいと思っている方を募集中です。

2階はサークル活動や座談会の場として利用。早速12月5日は、温故知新、先人が昔培った内牧づくりや次代に残すべき事柄を、今後につなげようと、「語る会」を実施。両親の仕事の関係で、幼児期(昭和6年頃)を阿蘇山の火口近くに住んでいたという、乙姫の中村幸子さんの話がありました。内牧でオリジナルな店を開いてみたい方、ぜひ、「Tomaっとベリーな基地事務局」(Tel: 090-9063-5766)まで、お問い合わせください。

県読書活動推進功労者表彰

～菅 紀子さん～

第59回読書週間を記念し、県内において読書活動推進に功労のある個人に贈られる熊本県読書活動推進功労者表彰が、12月5日熊本県立図書館で行われ、菅紀子さん(東仲町)が受賞されました。

菅さんは、平成8年11月に自宅横に子ども文庫「こどもる～む」を開設し、近所の子どもたちを対象に本の貸出を行っています。こどもる～むには約2,000冊の本があり、

小学生や園児が毎週水曜日に利用しています。「今後も、自分のできる範囲で、子どもたちと本との出会いの場を提供していきたい」と受賞の喜びを語っていました。



小さなバイオリニストに 優 秀 賞



第38回熊日学生音楽コンクールが12月19日、熊本市総合女性センターで開催され、予選を通過した出場者の中、バイオリン部門で、碧水小学校2年生の河村仁君が頂点の優秀賞に選ばれました。

小さな体全部を使って、すばらし音楽を奏でる仁君。バイオリンは5歳から始めました。「4歳からピアノを習っていましたが、入院することが多く、病院に持ち込める楽器に変更しました」とお母さん。この1年も入・退院を繰り返す中、1日2時間の練習を続けたそうです。「でも、ポケモンの方が好き」といつも笑顔の仁君。これからもがんばってステキな音楽を奏でてほしいものです。

ピアノコンクールで金賞

第15回熊本地区グレンツェンピアノコンクールの本選が11月20日、熊本県立劇場で行われ、宮地小学校2年の井上ひかりさんが約200人が出場した低学年の部で見事金賞に輝きました。

井上さんは4歳からピアノを学び、信頼する先生と練習に励んできました。「大きなトロフィーをもらった時は演奏の時より足が震えました」と普通の可愛い2年生ですが、ピアノに関しては毎日練習するがんばり屋さん。この賞でますますピアノが好きになったようです。なお、西日本大会は3月福岡で開催されます。



アマチュア横綱 獲った！ 強い！吉田勝雄選手日本一！



▲報道陣にガッツポーズでこたえる吉田選手

12月11日、両国国技館で行われた「天皇杯第54回全日本相撲選手権」で、日本大学4年の吉田勝雄選手(古神1区)が優勝しました。この選手権は、社会人や学生などアマチュアの日本一を決める名誉な大会です。試合の様子はテレビ中継され、吉田選手の妙技をご覧になった方も多いと思いますが、大変な実力の持ち主です。今大会のほか、インターハイ個人戦優勝、最近では、日本学生選手権団体戦優勝、世界選手権中量級2連覇(ドイツ、大阪)、ワールドゲーム2005中量級優勝(ドイツ)と、これまでの優勝経験は数え切れません。

吉田選手は宮地小2年の時に相撲を始め、相撲の名門宇土鶴城中学、文徳高校、日本大学と進みました。まじめな人柄と実力が認められ常にキャプテンとして活躍。身長175cm、体重116kgと相撲界では小柄ですが、人一倍努力し勝ち抜いてきました。強さの秘訣を父勝美さんは「幼い頃は人が相撲をとるのを、よく観察する子でした。その後は指導者のおかげです」と語り、大学卒業後は九州電力(株)に就職し、相撲を続けることが決まり喜ばれていました。

日本で最も強いテコンドー選手

全日本選手権もV

全日本テコンドー選手権大会が12月4日、東京都の国士舘大学で開催され、阿蘇市から樋口清輝さん(大学生、内牧2区)と、津田ひかるさん(阿蘇中2年)が出場し、樋口選手がフェザー級で優勝、津田さんが一般女子の部で2回戦進出と健闘しました。世界大会の選考もかねた今大会は国内で最も重要視される大会で、中学生ながら一般女子の部に出場した津田さんは関係者の注目を集めました。

樋口選手も快調に世界や国内の大会で優勝し、2008年のオリンピック出場目指しがんでいます。



▲大会の結果報告に訪れた津田さん(中央)と樋口さん(右)

阿蘇きすげコーラスが受賞



▲11月27日、フェスティバルのもよう。

熊本県おかあさんコーラス連盟創立20周年記念式典と第20回女性合唱フェスティバルが11月27日熊本県立劇場で開催され、阿蘇市生涯学習講座で学ぶ「阿蘇きすげコーラス」の皆さん(24名)が15回出場の日々の功績で、また代表の吉良久子さん(小里)が団をとりまとめ合唱活動に貢献したとして連盟から表彰されました。

式典後、きすげコーラスは村上一光さんから作詞作曲いただいた「阿蘇のとんびとからすと山鳩が」などを披露し、フェスティバルで大いに阿蘇の豊かな自然を歌い上げました。なお、阿蘇きすげコーラスは昨年結成25周年を迎えており、今後もますます歌の輪を広げるため飛躍されることでしょう。

厳冬なんのその！

力走！地域対抗駅伝



12月18日、阿蘇体育館をスタート・ゴールに役犬原・山田・湯浦地区、全長21kmのコースで、第1回阿蘇市民地域対抗駅伝大会が開催されました。今回は、21チームが参加。小学生から50代までの地区を代表する選手が12区間のタスキをつなぎました。

この日は前夜からの雪の影響でスタート時間を遅らすほど、ランナーには厳しい条件でしたが、大会に備え練習した成果を各チーム出し切り、沿道の声援にこたえました。記念すべき第1回大会の優勝は内牧Aチームでした。



▲優勝した内牧Aチーム

結果は次のとおりです。

優勝	内牧A	最優秀選手賞	工藤 颯(内牧A)
2位	阿蘇西A	1区	高城 芽生(宮地A)
3位	波野A	2区	首藤 健介(波野A)
		3区	安方 政人(内牧A)
		4区	山本 愛(阿蘇西B)
		5区	木村 文彦(坂 梨)
		6区	中島 慎治(内牧A)
		7区	春山 靖成(内牧B)
		8区	甲斐 秀美(波野A)
		9区	種子野珠希(阿蘇西A)
		10区	市原紗和子(山田A)
		11区	今村 浩司(内牧A)
		12区	園田 将之(役犬原)
			塚本 敬三(宮地E)



▲1万人の観客が見守る中に行われたイリュージョン(内牧遊水池)

1万人で「メリークリスマス！」

～聖夜に光のファンタジー楽しむ～

「ASOクリスマスバルーンフェスティバル2005」(実行委員会主催)が、12月23～25日、内牧の各会場で開催され、8回目となる今回も多くの人出で賑わいました。

2日間行われた熱気球の競技飛行には、全国から27機が参加。阿蘇五岳を背景に色とりどりの気球が飛び立ち、朝日に照らされると、観客はその美しさを盛んにカメラにおさめていました。

また、24日の夜に行われたバルーンイリュージョンは、FMKラジオの中継でショーが進められ、クリスマスソングにあわせバーナーの炎で気球が点灯。レーザー光線と花火1,500発も加わり、最高に盛り上がりました。

なお、このイベントには市民ボランティアのご協力を得ています。ありがとうございました。



▲Tomaとベリー主催のステージで「よさこいソーラン」を披露した阿蘇清峰高校3年生



▶ 商店街を練り歩いた仮装パレード (Tomaとベリーの皆さん)

共催イベントの表彰は次のとおり。

家丸ごとイルミネーションコンテスト

最優秀賞 大塚麗穂音さん(内牧1区・フレーバー)

「大きなくまのプーさんを中心に、大人も子どもも楽しめるよう工夫しました」

ポスターコンテスト

最優秀賞 高村雪乃さん(北黒川 阿蘇高2年)

学校の美術専攻者26作品の中から選ばれました。ポスターは実際にPRポスターとして500部製作。



▲阿蘇町商工会青年部主催大抽選会

目の不自由な方へ音声で情報伝える

音声ボランティア



「かけはし」(田尻雅史会長ほか5名)
現在顧問の家の入透さんの推進により平成8年
結成。作業は主に坂梨公民館で月2回活動。

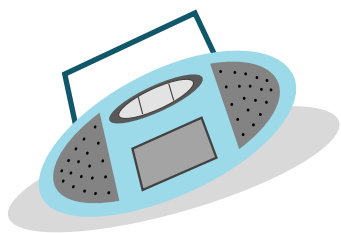
阿蘇市には、現在、2つの音声ボランティアグループがあります。旧一の宮町時から活動を続けている「かけはし」、旧阿蘇町で同じく活動していた「あそカナリヤの会」です。皆さんは、目の不自由な方など、活字で情報を得ることができない方にも、日常生活に必要な情報は伝えたいと、市の広報誌や、議会だより、社協だよりを読んでテープに録音。これを利用者に配布し、音声で情報を伝える活動を行っています。



「あそカナリヤの会」(内野京子代表ほか10名)
平成11年結成。作業は阿蘇市社会福祉協議会
で月2回活動。

やりがいのある活動です
「毎月テープを楽しみにしています」
との利用者の声を聞くと、大変うれしい反面、もつとうまく読んであげたいという気持ちになるという皆さん。そんな話を会のメンバーとするのも楽しいひと時。また、テープから突然声が出ると驚かれますので、バックに音楽を流しています。この選曲も楽しみみの一つだとか。

広報誌1冊で90分を越える録音作業
会員は講習を行い、全国共通の音声要綱に基づいた方法で録音しています。読む早さ、音の大きさなどたくさんの方の決まりがあります。録音は「広報あそ」で90分をやや超えます。読む部分の振り分けと録音作業で、毎月2回集まっています。



この音声広報テープは、目の不自由な方に限らず、高齢などで活字は無理という方にも利用いただけます。テープを利用したい方、また身近に希望する方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。

また、この活動に参加してみたいという方も、ぜひ、お問い合わせください。初心者の方でもOKです。

問合せ先：阿蘇市社会福祉協議会
ボランティアセンター
Tel：32-1127

～ありがとうございました～

ダビング機を寄贈いただき 作業時間が超短縮

音声訳ボランティアの活動に役立ててくださると、内牧2区の杉原春堯さんが大型のダビング機をカナリヤの会に寄贈されました。この大変高性能な機器の登場により、数時間かかっていた作業が数十分でできるようになりました。

【利用者の声】

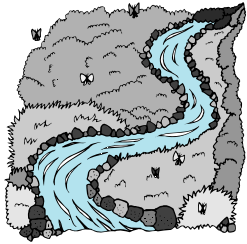
私たちに 手を差しのべた活動

坂梨の市原政春さん

「視覚障害により健常者が得る情報の大半が失われましたが、正直言いまして、点字や音声を使ってもいらないような情報が欲しいです。そんな中、音声訳の皆さんの活動がスタート。毎月テープを届けてくださるようになり、社会参加の意欲が生まれ感謝の気持ちでいっぱいです。いつも楽しみに市の行事や財政状況、議会での議論などを聞いています。この方は読み方がつまくなつたな一と感ずることもあり、声の広報はとても優しく心にしみみます。

“知る権利”は皆にあります。今後、視覚障害者を集め『対面朗読サービス』をしていただくなど、音声訳の活動が広まれば、大変喜ばれると思います。」





「水は上流から
守る」
市内外の人たちと
意見交換

12月11日、水に関する環境セミナー阿蘇フォーラムが、内牧1区公民館で開催され、おごもり花公園・花原川を守る会・熊本県阿蘇保健所の活動報告のほか、阿蘇地域振興デザインセンターの坂本英俊局長、佐藤市長、白川流域リバーネットワークの清家紀昭代表らを迎え、パネルディスカッションがありました。

反響をよんだ今回のフォーラムについて、主催した「阿蘇ホテルの会」の湯浅陸雄会長にお話をうかがいました。

「阿蘇の水田は、湿田が多く1毛作で肥料の残留もほとんどなく、阿蘇の水は一番安心・安全な水といっても過言ではありません。しかし、湧水量に対し、汲み上げ量が毎年増加している熊本の水問題は深刻です。これを踏まえセミナーを開催する運びとなりました。

パネラーの阿蘇市長からは、悠久の阿蘇の水を子どもや孫に引き継ぐ水対策等が行政に課せられた責務。上流域の阿蘇がまず水を守ることが肝要との提言があり、白川リバーネットワークの清家氏は、上・中・下流の地域連携を密にしていくことに大きな意義がある。今回の催しは、下流域から提案すべきと提言。阿蘇保健所の吉永環境係長からは、河川や山林への不法投棄も大きな環境汚染である。監視の目を光らせるとともに、個人のマナーの向上が一番であると提言がなされた。

さらに、聴衆からも意見があり、川や水に対する思いの深さが伝達された。

最後にコーディネーターの阿蘇地域振興デザインセンターの坂本局長が、水の源をなす阿蘇の上流から水を守る運動が発信されたことは意義深く、上流域の水脈を見直すよい機会であり、今後、上・中・下流が一体となり、ワークショップ等を繰り返し“熊本の水をどうするか”をあらゆる角度から知恵と工夫を重ね、行動に移すべきとの提案がありました。

今回のセミナー開催に対し、下流域から15人の参加があったことに感銘しています。水の大切さをいつも考えている方がいる、だからこそ、“水は上流から守るべき”と強く感じました」



夜なべ談議には
ぴったりの
季節です。

我がまちのこと、とことん語り
合いましょう。

一の宮町地域づくり
団体協議会が夜なべ談議
おでんを囲んで地域づくりを熱論



24団体でつくる一の宮町地域づくり団体協議会(志賀昭男会長)は、11月の例会は、夜なべ談議形式にしようと企画。26日、中通公民館で開催しました。

談議はおごもり花公園の菅乃保留代表、さかなし宿場會の赤星永幸代表からの「地域づくり活動の取り組みや問題点」の提言をうけ、助言や解決方法を討論する形式で進められました。初めての開催でしたが、共通の夢を語る談議は地域が活性化する肥やしになったようです。地域づくりにかける熱い想いと温かいおでんの湯気で会場は遅くまで盛り上がりました。

次回の談議は1月27日(金)午後7時から、坂梨公民館で、元阿蘇青年の家所長 早川さんを囲んで開催します。多数のご参加お待ちしております。

意見の一部紹介します。

提言の要旨

- ・地域づくりの先進地は、まず、住民の意識づくりが計られ、結束した取り組みがなされている。見習う必要がある。
- ・自分たちが住みよいまち、楽しいまちづくりを発想の原点にして、まず、地元の理解を得ることが大事。
- ・同様に、おごもり花公園も河川の環境整備が良くなり、視察や見学者も増えてきたが地元の総意を得るまでの浸透に悩みがある
- ・冬の「古閑の滝」は、年間1万人が訪れる名所になったが、道路の狭さや駐車場がないなどの苦情がある。しかし反面、観光客の来訪にうれしさの手ごたえを感じている。ゆっくりでも前に進みたい。

新エネルギー事業に着手

貴重な阿蘇の草原の保全及び有効活用を検討している阿蘇市は、NEDO技術開発機構の「バイオマスエネルギー地域システム化実験事業」に公募し、提案のあった全国39件の中から事業委託先に12月12日採択されました(阿蘇市含め7件)。

今後、5カ年かけ、バイオマス資源に関して、収集運搬システムや地産地消・地域循環型エネルギーシステムが成立することを実証するための、研究・開発が行われます。

事業名は「草本系バイオマスのエネルギー利用システム実験事業」。

この事業で、阿蘇の草原に豊富に存在する未利用のスキヤ木質チップなどを、エネルギーとして活用するシステムを構築し、阿蘇の景観保全・生物多様性の保全・観光資源の保全に資するもので、草資源の有効活用のモデルとして普及を図ることを目指します。

エネルギー変換施設は、アゼリア21の隣に建設されます(平成18年度完成予定)。

問合せ先:

阿蘇市役所企画財政課

TEL 22・3169

※バイオマスとは…再生可能な生物由来の有機性資源

草本系バイオマスエネルギー利用システム



具体的には…阿蘇に広がる草原の草を、機械を使用して収集・運搬し、必要量をバイオマスガス化発電施設に投入して熱や電気のエネルギーに変換し、アゼリアの温水プールや温泉に活用することになっています。

また、処理過程で発生する灰や炭は、肥料・土質改良材として農地や草原に還元していく計画です。

楽しい時間のプレゼント

阿蘇市の病院や施設で、慰問ボランティアが盛んに行われ、利用者から感謝の声が相次いでいます。



▲中央が黄門役の市長

▶阿蘇中央病院では、12月17日、医師・看護師などのスタッフが水戸黄門の寸劇を行ったり、阿蘇少年少女合唱団による天使の歌声や患者家族の大正琴の演奏など、クリスマス会を開催。この日を楽しみにしていた患者さんからは割れんばかりの拍手が。また決めのシーンで登場した水戸黄門様はなんと市長！名演技に会場は大変盛り上がりしました(写真上・右)。



▲阿蘇市コミュニティセンター生涯学習講座生でつくる「阿蘇ヒューマンの会」(山本浅子さんほか30人)は、毎年、市内の病院、県内の福祉施設を慰問する活動を行っています。12月19

日は、市原胃腸科外科を訪問、患者にクリスマスプレゼントを贈り、歌や踊りを披露しました(写真上)。



文化ホールをどう造るべきか…

— 公募委員17人含む市民会議がスタート —



参考

文化ホール建設推進のための会議は次のとおり

- ・阿蘇市文化ホール市民会議
- ・阿蘇市文化ホール専門家会議
- ・阿蘇市文化ホール庁内検討会議

合併協定事項として、建設が予定されている「阿蘇市文化ホール」。市は、利用する市民にもっとも望まれるホールを建設するため阿蘇市文化ホール市民会議を設けました。

9月から委員の募集を行い、17人の市民を公募委員に決定。12月6日、市役所で公募委員を含む、地域や文化に関する各団体の代表ら39人の委員に佐藤市長から委嘱状が交付されました。

市長の激励で「皆それぞれホール建設に想いがある、委員の任期の2年間、職務を意欲的に行なう」と決意。その後、第1回の会議が行なわれ、本会議議長に小嶋維男議員(文教厚生常任委員)、副議長に岩永浩阿蘇市文化協会長、阿南洋波野商工会長が選任され、早速、これまでのアンケート結果などをもとに審議がスタート。盛んに論議が交わされました。

今後、会議での審議の中間報告は本紙面で掲載していきます。

文化ホール講演会のお知らせ

文化ホール市民会議の事業のひとつとして右のとおり文化ホール講演会を開催いたします。

全国で活躍している文化ホールの専門家による講演です。どなたでも無料で参加できますので、是非ご来場下さい。

期 日：2月10日(金) 13:30～

場 所：阿蘇市就業改善センター(一の宮町宮地)

講 師：財団法人地域創造芸術環境部プロデューサー

つむら たかし
津村 卓先生

＝講師略歴＝

地域公立ホール・劇場担当者の企画・運営に関する交流・研修を通じて、発信・人材育成事業の実践マニュアルを策定する。財団法人地域創造に所属。

びわ湖ホール演劇プロデューサー・長崎県文化アドバイザー・長崎市文化アドバイザー・北九州芸術劇場チーフプロデューサーなどを歴任。

問合せ先：阿蘇市役所まちづくり商工観光課
Tel：22 - 3187

お元気ですか

～食生活改善推進員協議会～

あったか冬場の献立で
健康づくり



11月25日、南黒川地区で健康教室を開催しました。
参加した皆さんに試食していただいた、サツマイモをゆでて米粉に練りこんだ団子を使った「小袖団子汁」や「大豆ご飯」「魚の香りフライ」「大根サラダ」は、地元でとれた野菜を使い簡単に家庭でもできる冬場の献立として、大変好評でした。
また、阿蘇支部役員が「食生活改善指針」の説明や食事バランスなどの話をし、今後の健康づくりに役立ててもらおうなど、食に対する関心を一層深めるよい機会となったようです。

